

指導資料

特別支援教育 第186号



鹿児島県総合教育センター
平成28年10月発行

対象
校種

幼稚園 小学校 **中学校**

高等学校 **特別支援学校**

読み書きに困難さのある生徒に対する 英語教育入門期における指導 ーフォニックスによる英単語の読みの指導を通してー

読み書きに困難さのある生徒にとっては、英語の学習においても困難さが予想される。そこで、英語教育の入門期にある生徒に対して、英単語の読み方の規則性を明確にし、視覚情報と聴覚情報を活用したフォニックスによる指導について紹介する。

はじめに

平成26年の「今後の英語教育の改善・充実方策について(報告)」では、次期学習指導要領改訂において、小学校の中学年からの外国語活動の開始や、高学年で教科として位置付ける方向が示されている。小学校中学年では、音声に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う、小学校高学年では、身近なことに関して基本的な表現によって積極的に「読む」、「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う、中学校では、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養うなど、英語教育の在り方が検討されている。

1 英語教育に関する教師と生徒の意識

ベネッセ教育研究開発センターによる「中学校英語に関する基本調査」(2010)では、生徒の英語学習のつまずきの主な原

因は、「英単語(発音、綴り、意味)を覚えることが苦手」と68.8%の教師が捉えている。一方、「小・中学校の英語教育に関する調査」(2012)では、中学校第1学年が小学校でやっておきたかったこととして、「英単語を書くこと」(33.1%)、「英単語を読むこと」(26.9%)が上位を占めた。以上のことから、読み書きの基礎となる英単語の学習が、英語教育の重要な鍵を握っていると言える。

2 日本語と英語における発音の違い

日本語の平仮名や片仮名は、「あいうえお」などの読み方を覚えれば、単語も文も読めるようになる。一方、英語の場合、アルファベット26文字の読み方を覚えても、英単語が読めるようになるわけではない。アルファベットには、[ei], [bi:]などの「名前」と、[æ], [b]などの「音」がある。英語では、「名前」と「音」が異なること

もある上に、日本語にはない音もあるために、英単語を読む場合に困難さが生じることが考えられる（図1）。

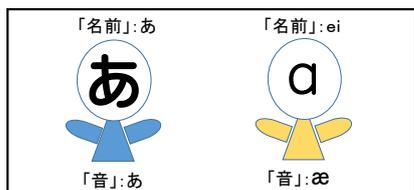


図1 平仮名とアルファベットの名前と音の比較

3 英単語の発音指導

アルファベットには、「名前」と「音」があるが、従来の英単語の発音指導では、アルファベットの「名前」を扱うだけで、「音」の規則性に基づいた指導は少ない。例えば、「bag」は、[b][æ][g]の三つの「音」で構成されている。「音」に着目した指導を行うことにより、「英単語をひとまとまりで読めない」などの困難さがある生徒にとっては、big[big], desk[desk]などのように単純な規則を身に付け、英単語を読めるようになることが期待できる。

4 読み書きの困難さの要因と配慮

読み書きの困難さの要因としては、情報入力段階（見たり、聞いたりして情報を取り入れる）、情報処理段階（文字を音声に、音声を文字に変換する）、情報出力段階（読む、書く）といった一連の流れのいずれかの段階において、適切な処理がうまくできていないことが考えられる。指導に当たっては、これらのことを踏まえ、一人一人の学び方に応じることが求められる。

文字を読むことへの抵抗感を減らすためには、アルファベットから「音」を想起できるように、片仮名文字やイラストを付け

た文字カードの活用や、発音のモデルの提示により、生徒に発音させ、文字と「音」との関連付けを図る。また、最初から書くことを強えず、文字の形を認識できるように、「音」を聞いて文字カードを選び取ったり、文字カードを見て発音したりする指導から始め、徐々に書字へ移行させるようにすると、書くことの困難さを軽減できる。

5 フォニックスとは

フォニックス (Phonics) とは、英語における、綴り字と発音との間の規則をまとめたものであり、英単語の正しい読み方の学習を容易にさせる方法の一つである。英語圏の生徒や外国人に英語の読み方を教える方法として用いられる。アルファベットと音のルールを学ぶことで、知らない英単語も推測して正しく発音できるようになることが期待され、現在、英語の学習に困難のある特別な支援の必要な生徒への指導においても、その効果が報告されている。

ところで、英単語の約75%は、綴りと発音の関係に規則性があると言われている。フォニックスによる学習では、使用頻度が高く、基礎的なルールのものから学んだ後に、例外的なものを学ぶようにする。このように、フォニックスのルールの基本をチャンツでリズムカルに繰り返すことで、正しい発音と英単語の読み方について少しずつ慣れるようにし、覚えやすくすることが大切である。

【フォニックスによる学習のメリット】

- 音を推測して単語が読める。
- 発音を聞いて、単語の綴りが分かる。
- 英語に対する苦手意識が軽減される。
- 短時間で修得できる。

6 フォニックスのルールを活用した指導

(1) アルファベットの発音

「音」の表記を挿入したアルファベット発音一覧表（表1）を基に、正しい発音が収録されたCDなどを活用して、発音の練習を行う。フォニックスジングルを用いることで、同じ言い回しで正しい発音を記憶しやすくする。

表1 アルファベット発音一覧表

アルファベット	「音」	アルファベット	「音」	アルファベット	「音」
a	[æ]	j	[dʒ]	s	[s]
b	[b]	k	[k]	t	[t]
c	[k]	l	[l]	u	[ʌ]
d	[d]	m	[m]	v	[v]
e	[e]	n	[n]	w	[w]
f	[f]	o	[ɑ]	x	[ks]
g	[g]	p	[p]	y	[j]
h	[h]	q	[k]	z	[z]
i	[i]	r	[r]		

フォニックスジングルとは、「A says, /æ/æ/æ/」のように、アルファベットの正しい発音を唱えながら覚える方法である。

(2) 音の足し算による英単語の読み

英単語の読みに関しては、「音」の足し算による指導を行う。文字カードを活用して「①文字の音を言う」、「②音の足し算をする」、「③英単語を言う」の手順で英単語の読みを練習する（図2）。

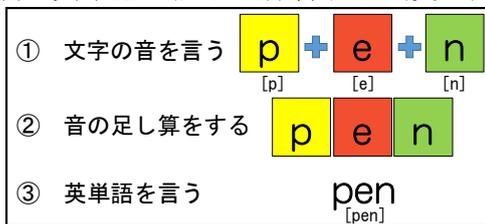


図2 音の足し算による単語の読みの手順

「bag」、「cup」など、「子音字+母音字+子音字」で構成される英単語を中心に読みの練習を行う。読みが困難な場合には、イラストなどをヒントにし、徐々に英単語だけを見て読ませる。

例 bag, pet, cat, cup, pig, box など

音の聞き取りの指導では、絵カードなどを用いて、二択の問題（「cat-cut」など）で、聞こえた方のイラストに○印を付けるようにする。

例 cat-cut, bed-pet, hot-hot など

(3) 基本的な読み方のルール

「母音字+子音字1個+e」の場合には、母音字は「名前」読みをし、最後の「e」は発音しない（図3）。

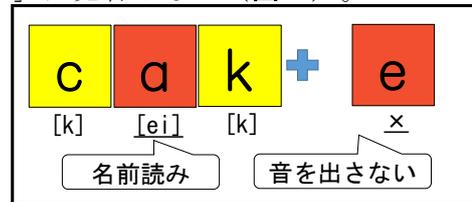


図3 母音字+子音字1個+eの読み方

例 game, name, note, time, use など

また、母音字が一つで、語尾につくときは、その母音字を「名前」読みする。

例 he, she, me, we, no, go, so など

※ do, toは例外

※ 英単語は、短母音で終わることはない。

また、母音字が二つ並んでいる場合、1番目の母音字を「名前」読みし、2番目の母音字は読まない（図4）。

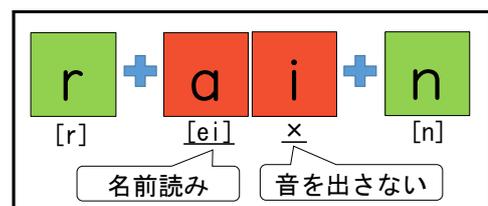


図4 母音字+母音字の読み方

例 sea, free, lie, boat, blue, fruit など

「w」、「y」は、半母音と呼ばれ、母音の働きをする。「w」は「u」、「y」は「i」の代わりに英単語の最後に出てくる。したがって、「ay」、「ey」、「ow」の場合も「母音字+母音字」のルールが適用される。

例 day, say, key, money, snow, など

7 実践事例

ここでは、英語の学習が苦手である生徒M（中学校第1学年）への指導を紹介する。
この実践は、自立活動の時間（週1回）において、以下の計画で1学期間指導を行った。

主な学習活動		生徒Mの学習の様子						
【アルファベットの発音】（約5分） フォニックスジングルによる発音の練習 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <td>母音字</td> <td>： 赤のカード</td> </tr> <tr> <td>子音字 (有声音)</td> <td>： 緑のカード</td> </tr> <tr> <td>子音字 (無声音)</td> <td>： 黄のカード</td> </tr> </table> 		母音字	： 赤のカード	子音字 (有声音)	： 緑のカード	子音字 (無声音)	： 黄のカード	初めはアルファベット順にカードを提示し、フォニックスジングルを行った。取組開始時は小声で発音していたが、徐々に教師に続いて復唱するようになった。 ランダムに提示されたアルファベットを見て、「“A” says, /æ/æ/æ/」と拍打ちをしながらテンポ良く発声するようになってきた。「a, o, u」を「æ, a, ʌ」と正確に発音するようになった。
母音字	： 赤のカード							
子音字 (有声音)	： 緑のカード							
子音字 (無声音)	： 黄のカード							
【フォニックスのルールの確認】（約15分） ① 母音字の「音」読み 「子音字+母音字+子音字」の英単語 ② 母音字の「名前」読み 「母音字+子音字1個+e」（silent e）の英単語		カードを見ながら視覚的に捉えて、母音字の音読みと名前読みを区別して発音することができるようになった。英単語を見て「最後にeがあるときは、名前読みだ。」と自分でルールを確認しながら、正しく発音することができるようになってきた。						
【英単語の発音】（約20分） アルファベットカードの並び替えを通した、音の足し算による英単語の読み		「cake」, 「name」, 「game」というように基本形の母音字は固定して、子音字のみを入れ替えて読ませたところ、子音字の発音に気を付けながら読むことができた。						

<指導経過>
 頻繁に使う母音字や子音字については、名前と音を覚えて正しく発音することができるようになってきた。また、英単語の読みにおいては、特に母音字の読み方に注意を払い、アルファベットを一文一文字ずつルールに従って発音した後、音の足し算によって正しく発音することができるようになった。生徒Mに自分で文字カードを並べさせてから読ませる活動を行った結果、生徒Mは、「英語って面白いね。」や「先生の教え方うまいね。」と発言するなど、英単語を読めることの喜びを表現するとともに、当初示していた英語の学習への抵抗感が軽減し、学習への自信と意欲が高まってきた。

おわりに

読み書きに困難さのある生徒に対する英単語の読みの指導の一つの方法として、フォニックスを紹介した。指導に当たっては、教師とのやり取りを通して、絵カードや色分けした文字カード、タブレットなどを、生徒が自分で操作し、正しい発音を確認するなど、視覚や聴覚を活用させ、苦手意識に配慮しながら楽しく学習ができるようにしたい。特別

支援教育においては、従来の教え方で学習が進みにくい生徒に対して、その生徒の学び方に応じた指導を工夫し、学びを実感できるようにすることが大切である。小学校については、新学習指導要領の先行実施に向け、取り組んでいただければ幸いである。

—参考文献—

- 松香洋子著『フォニックスってなんですか?』2015, 株式会社mpi
- 正頭英和著『音読指導アイデアBOOK』2016, 明治図書
- 高橋美由紀, 柳善和編著『小学校英語教育』2015, ジアース教育新社

(特別支援教育研修課)